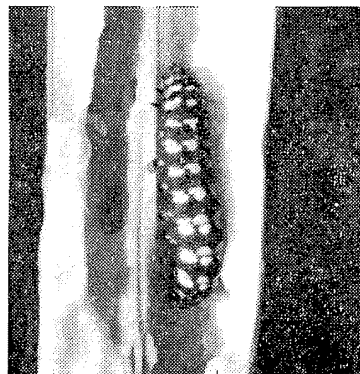


ロオビキンバエ *Chrysomya pinguis* Walker, ミドリキンバエ *Lucilia illustris* Meigen, センチクバエ *Sarcophaga peregrina* Robineau-Desvoidy, シリグロニクバエ *Sarcophaga melanura* Meigen, ナミニクバエ *Sarcophaga similis* Meade.

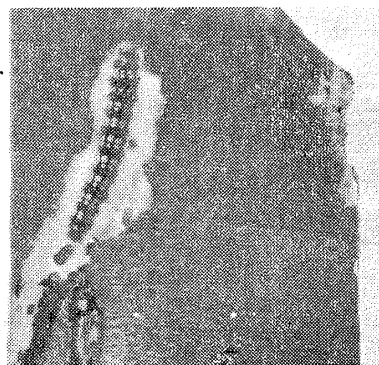
ハマオモトヨトウ伊豆大島に産す

内 藤 篤

1962年の9月下旬、伊豆大島で開催された会議に出席の際、東京都農事試験場長の馴松氏より、ハマオモト（ハマユウ）を加害しているヤガの一種の幼虫について調査を依頼されたこともあつて、同島を一巡のとき、栽培あるいは自生しているハマオモトについて調べる機会を得た。同島のハマオモトは、多くのものが本種の加害を受けており、ことに大島公園内に栽培されているものは被害が大きく、葉肉内に若令幼虫が多数潜入り、花茎は食害をうけて上部が枯死しているものが多かつた。また、なかには果実内に食入しているものもみられた。鴻巣にもち帰つた幼虫は、アマリリスの葉を与えて飼育したところ、10月下旬～11月中旬にかけて、土中に潜入して蛹化した。



花茎内に食入した老熟幼虫



葉肉内に食入した若令幼虫

ハマオモトヨトウ *Brithys pancratii* Cyrilli については、山下善平教授が“ひらくら” vol. 5 にくわしくまとめており、地理的分布についても述べておられるが、伊豆大島からは記録はないようである。筆者は今年春（昭和38年）応動昆の学会の際、同氏にお逢いして本種のことに話が進み、やはり同島からは未記録であることを確認したので、ここに報告することにした。参考までに同島で採集した幼虫と被害の写真掲げる。なお幼虫の同定については、農技研の服部技官にお世話になつたことを付記しておく。